

第一作戰經過ノ概要

其一 長興ニ於ル師團長ノ部署

師團ハ丁集作命甲第三十一号ニ基キ一部ヲ以テ當面ノ敵ヲ南京ニ向ヒ進撃セシメ主力ヲ夾浦鎮ニ集結シテ爾後ノ追撃ヲ準備スルニ決シ上月二十四日秋山支隊ヲ編成シ(二四師作命甲第四十号)師團ノ長興進入ニ引續キ二十六日直ニ之ヲ出發セシムル共ニ師團主力ヲ長興附近ニ集結セリ(二四師作命甲第四十一号)

秋山支隊ノ出發ニ方リ特ニ同支隊ニ參謀(森藤大尉)ヲ附シ之ニ支隊ヲシテ機ヲ失スルコトナク果敢神速ニ敵ニ追尾突進セシムル如ク其ノ作戰ヲ指導スヘキコトヲ訓令ス

然ルニ二十七日師團ハ丁集作命甲第四十三号ニ依リ有力ナル一部ヲ以テ宜興ヲ確保シ主力ハ長興附近ニ於テ爾後ノ前進ヲ準備スヘキヲ命セラレタルヲ以テ直ニ中井參謀ヲ上周港(夾浦鎮北方約二料)附近ニ於テ敵陣地攻撃中ナル秋山支隊ニ派遣シ

同支隊ニ対シ宜興ヲ確保シテ師團主力カノ南京ニ向フ前進ヲ容易ナラシムヘキヲ命  
ス(二四師作命甲第四十三号)

斯クテ師團ノ南京ニ向フ一擧追撃ハ稍氣勢ヲ殺カルノ觀アリシカ師團長ハ之ニ  
依リテ敗退中ノ敵カ漸ク其ノ戦力ヲ恢復シ爲ニ師團爾後ノ追撃ヲシテ二層困難  
ナラシムルノミナラス之カ爲徒ニ時日ヲ要スヘキヲ思ヒ少クモ一部ヲ以テナルヘク前方ノ要地ヲ  
占領スルノ必要ナルヲ思ヒ二十八日歩兵第百五十聯隊長ノ率ル歩兵二大隊工兵一小  
隊ヲ先遣隊トシ午前八時長興出發長興ノ荒園裏ノ長岡嶺ノ張渚鎮ノ戴  
埠道ヲ溧陽ニ向ヒ前進シ同地ヲ確保シテ師團主力ノ同地進出ヲ容易ナラシム(二  
四師作命甲第四十四号)

次テ二十九日更ニ輿旅團長ニ旅團ノ殘餘及ヒ野砲兵二大隊ヲ指揮セシメ午前九時  
長興出發夾浦鎮ノ丁山市ノ張渚鎮ノ戴埠鎮通リ溧陽ニ向ヒ前進シ先遣  
隊ヲ併セ指揮シテ溧水方向ニ対ス師團主力ノ前進ヲ容易ナラシメタリ(二四師作  
命甲第四十五号)

此間秋山支隊ハ夾浦鎮北方高地ニ陣地ヲ占領セル敵ヲ擊破シテ之ヲ急追シ二十  
八日夜宜興ヲ占領セリ茲ニ於テ師團ハ更ニ殘餘部隊ヲ逐次前方ニ推進シ(一)  
四師作命第四十六号)次テ丁集作命甲第四十七号ニ依リ師團主力壹興(附  
近)推進ヲ命セラルニ及ヒ十一月一日師團司令部ヲ以テ長興ヨリ一舉宜興ニ前進シ  
爾後宜興以西ニ師團ノ主力ヲ配置シテ南京ニ向テ前進ヲ準備スルニ至リ

其二 溧陽進出迄ノ諸隊ノ行動ノ概要

秋山支隊ハ所命ノ如ク二十六日朝長興ヲ出發同日午後夾浦鎮北方高地附  
近ニ於テ陣地ヲ占領セル敵ヲ攻撃セリ

該敵ハ機關銃迫擊砲ヲ有シ夾浦鎮附近ヨリ縱深ニ陣地ヲ占領シアリテ特ニ  
金村山下附近ヨリ南山ニ亘ル間陣地ハ最モ堅固ナリ

又隊ニ部ヲ以テ本道方面ヨリ主力ヲ以テ本道西側地ヨリ敵ノ退路ヲ遮断スル如ク  
晝夜攻撃ヲ敢行シテ二十七日夜遂ニ南山一帯ノ敵ヲ擊破シ引續キ敗敵ヲ擊滅  
シ急追シテ二十八日午後十時遂ニ宜興ニ進入セリ

二十九日支隊ハ宜興附近ニ蝟集シテ残敵ヲ掃蕩スルト共ニ步兵大隊ヲ直ニ徐  
舍鎮ニ出シ同地ヲ確保シテ師團爾後ノ追撃ヲ容易トラス

步兵第百五十聯隊長ノ率ル先遣隊ハ所命ノ如ク十月二十八日午前八時長興  
出發 長興ノ荒園裏ニ長岡嶺ニ張渚鎮ニ戴埠道ヲ前進シ十月三十日夕戴  
埠ヲ占領ス約三百ノ敵ヲ撃破シテ同地ニ進入セリ

十一月一日先遣隊ハ敗敵ヲ追ヒ溧陽ニ向ヒ前進シ續行ト同輩ニ後殆ト敵ノ  
踵ニ接シ之ニ抵抗ノ餘裕ヲ興フルコトナク溧陽ニ進入シ同地ヲ完全ニ占領セリ

奧旅團ハ十一月二十九日午前八時長興出發 長興ニ夾浦鎮ニ丁山市ニ張渚鎮  
ニ戴埠道ヲ前進シ途中大ナル敵ヲ抵抗ヲ受クルコトナク十二月二日溧陽ニ進入シ前  
日入城スル先遣隊ヲ其ノ指揮下ニ掌握セリ

其三 宜興以西ニ於テ師團長ノ部署並ニ之ニ

基ク溧水ヲ占領シ諸隊ノ行動ノ概要

十一月一日師團長ハ宜興ニ前進シ秋山旅團ヲ掌握スルト共ニ先遣隊 奧旅團共

溧陽附近ニ進出シテルヲ知リ茲ニ於テ師團長ハ更ニ兵力ヲ前方ニ集結シテ爾後、  
前進ヲ容易トシムルニ決シ同日夕命令ヲ下シ秋山旅團ヲ徐金鎮ニ向ヒ前進セシムル  
共ニ奧支隊ヲシテ溧陽占領後南渡鎮ニ向フ前進ヲ準備セシムル如ク部署セリ(一)  
四師作命申第四十八号)

斯クテ秋山旅團ハ二日朝宜興出發途中敵ノ爲破壊シラレタル十数箇ノ橋梁ヲ工兵援  
助ノ下ニ通過シテ同日夕徐金鎮ニ進入シ奧旅團ハ其ノ先遣隊ヲ以テ南渡鎮附近ヲ  
占領セル約二百ノ敵ヲ撃破シ同日夕南渡鎮ニ進入セリ

師團司令部ハ二日宜興ニ在リテ丁集作命甲第四十九号及甲第五十号ヲ受領シ且  
新ニ獨立機關銃第三大隊及戰車第五大隊ヲ配屬セラレタルヲ知ル

茲ニ於テ師團ハ一意南京ニ向フ追撃ヲ敢行スル爲先ツ溧水北方地区ニ向ヒ前進スル決  
シ二日夕命令ヲ下シ奧支隊ヲシテ先ツ溧水北方地区ニ向ヒ敵ヲ追撃シ溧水―南京道  
方向ヨリ師團主力ノ追撃ヲ容易トシムルト共ニ師團主力ヲシテ逐次之ニ追及セシムル  
ノ部署ヲ爲セリ(二四師作命甲第四十九号)

奥支隊ハ銳意前進ヲ續行シ其先遣隊ハ十二月四日午後三時溧水ヲ占領シテ約四百名ノ敵ヲ撃破シテ同地ニ進入シテ確定ニ占領支隊主力亦同日夕先遣隊ニ追及セリ同支隊ハ五日更ニ溧水北側地区ニ進出シテ師團所命ノ追撃ヲ準備ス

此間師團主力ハ逐次奥支隊ノ進路ヲ追及シ五日夕乃至六日朝徒歩部隊ノ大部ヲ以テ溧水ニ到着シタルモ野砲兵聯隊野戰重砲兵聯隊第三第四野戰病院等車馬部隊ハ宜興以西ノ橋梁修理爲意外ニ時間ヲ要シ其行進甚ク遅滞シテ兵ノ主力ヲ以テ援助スルモ尚溧水到着迄ニ數日ヲ要スルキ状態ニ陥レリ

(二四師作命甲第五十号 甲第五十一号)

0349

一、追撃ハ敵ニ寸刻ノ餘裕ヲ與ヘサルヲ續行スルヲ要ス

師團ハ當初一意南京ニ向フ追撃ヲ續行スル目的ヲ以テ秋山支隊

ニ最モ積極果敢ナル急追ヲ要求シタルモ途中軍命令ニヨリ同支隊

ニ宜興確保ノ消極的任務ヲ與フルニ至リ爲ニ同支隊ノ追撃ハ宜

興附近ニ於テ一時中絶セラル、ニ至レリ

然ルニ同支隊ノ宜興停止ニヨリ敗退中ノ敵ハ漸ク行動ノ自由ヲ回復

シタルモノ、加ク宜興以西溧陽ニ至ル間ニ於テハ殆ント隨所ニ於テ橋

梁ヲ破壊シツノ數殆ント廿ニ近キノミナラス破壊ノ程度ニ於テモ根

本的トナリシモノ少ナカラス

之ク爲爾後ニ於ケル師團ノ溧陽ニ向フ前進ハ著シク遲滞シ車

輜部隊ノ如キハ特ニソノ前進困難ヲ極ムルニ至レリ

然ルニ溧陽以西ニ於テ師團ガ比較的敵ノ抵抗ヲ受クルコトナリ

速ニ漂水附近ニ進出シ得タル所以ノモノハ師團カ長興ヨリ直チニ  
深陽以西ニ先遣隊、輿支隊ヲ相次テ派遣シ追撃ヲ中絶セ  
カリシニ依ルモノト信ス

後方補給ノ特ニ不充ナリシ本作戦ニ於テ猛烈ナル追撃ノ敢行ハ  
愈ニ困難ナルモノアリト雖既ニ敗色濃キ支那軍ニ對テハ假令一部ト雖  
追撃ヲ中絶セサル如ク之ヲ續行セシムルノ必要ヲ痛感セリ

ニ 夜間ノ追撃ヲ方リテハ穿貫的ニ突破スルヲ必要トス

敵ノ火力ヲ裝備優良ナラス且砲兵ヲ有セザル場合夜間ノ火力發  
揮ノ困難ナル時機ニ乘シテ22M2等ノ損害ヲ避ケ穿貫的ニ陳  
列突破ヲ敢行シテ敵ノ防禦組織ヲ破壊シ猛烈ナル突破進  
出ニ依リテ敵ノ背後ヲ脅威セハ之ヲ捕捉殲滅スルコトヲ得ヘシ  
ニ 追撃ヲ猛烈ナラシムル爲ニハ如何ナル場合ニ於テモ必ず携帶口糧乙  
ハ遺憶ヲ補給スルヲ要ス

秋山支隊ハ金村附近ノ敵<sup>陣地</sup>突破スルヤ之ニ引續キ直チニ猛烈



ナル追撃ヲ敢行シタル追撃部隊ハ遺憾ナカラ攜帶口糧ニ  
ヲ使用シ盡シ而シテノ補充ナキ爲前日ノ攻撃ヲ以テ吃食シテ  
サリシ關係上追撃力次第ニ減退シ途中飯盒炊爨ノ爲遂ニ一  
時停止スル已ムナキニ至レリ

四 中支地方ノ作戰ニ於テハ水路ヲ徹底的ニ利用シ得ル如ク多数ノ  
舟艇ト之カ漕航並ニ戦闘ニ要スヘキ特殊ノ訓練ヲ經タル兵力  
ヲ準備スルヲ要ス

本作戦地ガニ於ケル地理的特徴ハ「グリック」多クシテ道路ノ乏シキ  
ニアリ即チ到ル處「グリック」縱横ニ存在シテ舟艇ノ航行自由ナル  
水路多キニ反シ道路ハ唯一本ノ幹線ノ他田畝ノ畔道アルニ過ギス  
之等畔道ハ僅カニ輕装セル徒歩兵ノ一列行進ヲ容ルシテ許ス程  
度ニシテ而モ其ノ方向ハ甚タ區々全ク前後左右ニ連絡ナキモノナリ  
此ヲ以テ若シ水ヲ障碍ト考ヘテ道路ヲ求メシカ本地方ハ作戰上  
甚シキ障地帯タリト雖吾人ニシテ若シ水路ヲ交通主体トシ陸上道

路ヲ割トスルヲ得ンカ此ノ觀念ハ亦大ニ改メラルサルハカラス。

吾人ハ支那人ノ所謂南船北馬ノ語ニ鑑ミ中支作戰ニ船即水路ノ  
徹底的利用ヲ圖ルヲ以テ本地方ノ地形ヲ征収利用スルノ最捷徑  
ナリト信スルモノナリ

而シテ之カ爲ニハ豫メ平時ヨリ多数ノ舟艇(ナシ得レハ武装装甲  
ヲ準備スル)共ニ之カ漕航戦闘ノ爲ニ必要ナル訓練ヲ施シ置ク  
コト必要ナリ

五、砲兵ニハ素人の輕易ニ架橋作業ヲ實施シ得ル如ク勤員編

成ニ所要ノ器材ヲ有セシムルヲ要ス

輕易ナル橋梁ノ破壊ト雖悉ク工兵ノ手ヲ煩ハスコトハ目下ノ工兵

兵カニ鑑ミ著シク其ノ行動ヲ遲滞セシメラル之カ爲諸兵種殊ニ

砲兵ノ如ク重部隊ニ有リテハ輕易ナル工事ハ自ラ實施シ得ル如ク

所要ノ器材ヲ裝備スルコト特ニ必要ナリ

今回ノ宜興―深陽間ノ前進ノ如キ多数ノ橋梁破壊セラレタル

0353

爲工兵ノ修理後ト雖車輦部隊ノ通過ニ依リテ再ヒ破壊シテ通過困難ニ陥ル橋梁アリ

再工兵ノ修理ヲ待テテ前進スルヲ要シ之カ爲相當ノ時間ヲ要セリ砲兵自身修理シテ前進シ得ル如ク所要ノ器材ヲ編成中ニ有スルヲ要ス

六、陣地ヲ占領セル支那軍ヲ捕捉スル爲メ徹底的ニ迂回シテ速ニソノ退路ヲ遮断スルヲ要ス

陣地ヲ占領セル支那軍ノ正面戰鬪力ハ相當ニ見ルヘキモノアリト謂ハサルヘカラス是レ彼等カ到ル處ノ正面ニ對シテ殆ント半永久的トモ思ハルル程度ニ陣地ヲ堅固ニ設備シ地形ノ錯雜ト相俟ツテ巧ミニ之ヲ偽裝シ而モ其ノ守兵ハ狼噴キ血シト思ハルモノテニ昏夜ヲ分カズ緬緘ヲ繼續スル爲メ其ノ正面抵抗力ハ侮リ難キモノアルハナリ然レトモ側方ニ對スル配備ハ窠外無頓着ニシテ殆ントソノ顧慮ヲカシアラサルモノ多キカ如ク秋山嶺圍ノ南山附近ノ攻撃等ノ如キ或ハ

先遣隊ノ行動、如キ何レモ迂回、殊ニ迂回ニ依リテ敵ヲ抵抗意  
志ヲ斷念セシムルノ邊却テ誘致セシムルニシテ之ヲ一例ト云フヲ得ベシ  
然レトモ迂回ハ規模ナルホキハ未ダ敵ヲ捕捉スルニ足ラヌシテ單ニ敵  
ヲ圍却セシムルニ過キサルコトヲ銘記セサルハカラズ

諸隊ノ作戰ハ迂回ヲ經何レモ過少ニシテ敵ノ大半ヲ逸シタルノ  
慮アリ敵ヲ徹底的ニ捕捉スルタメハ迂回範圍ヲ一里ヲシムルニ專ス  
而シテ迂回之際敵ハ正面ニ對シ殆ト出撃手ノ慮ナキヲ以テ正面ニ充ツル  
兵力ハナル可ク少ニシテ迂回捕捉部隊ヲナル可ク大ニスルコト必要ニシテ  
亦可能ナリ

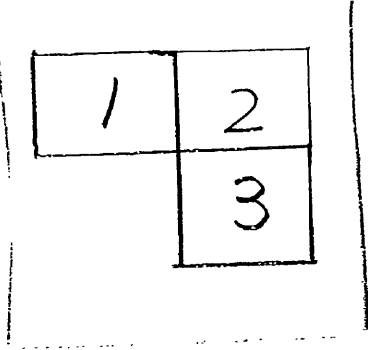
七、作戰地方ノ十分地圖ハ修正ヲ要スルニ在リ、勘定ニテ道路網  
於テ殊ニ然リ

師團ハ行軍ノ追及意外ニ遲シタルタメ湖州以西ノ地圖携行教  
甚ク少ク本作戰間著シク不便ヲ感シタルモ更ニ不都合ヲ感シテ  
此ハ折衝新持シタル少數ノ地圖カ甚ク現地ト相違シアルコトナリ

夾菲鎮北側ノ秋山旅團ノ攻撃地区附近ニ於テ殊ニ甚シク殆ク  
地圖ヲ以テ命令、報告ノ資トナスヲ得ス別ノ要圖ヲ使用スルノ  
止ムナキニ至リタリ

而シテ地圖中ニモ方眼ヲ有スルモノ(當時大段ヲ通シ一部ノミ携  
行シナリキ)ハ正確ナルモ方眼ナキモノハ殊ニ誤謬甚クシカリキ

## 分割撮影ターゲット

|                      |  |
|----------------------|--|
| 分割した<br>部分の<br>撮影順序  |  |
| 分割撮影<br>した理由         | A3版以上のため   |
| 文書等名                 | 自 長興<br>至 漂水<br>作戦経過一覽図  |
| 上記のとおり分割撮影したことを証明する。 |  |